

平成28年社会生活基本調査でみる鳥取県

～生活時間に関する結果から～

社会生活基本調査は、生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、社会生活の実態を明らかにするもので、5年ごとに行われています。

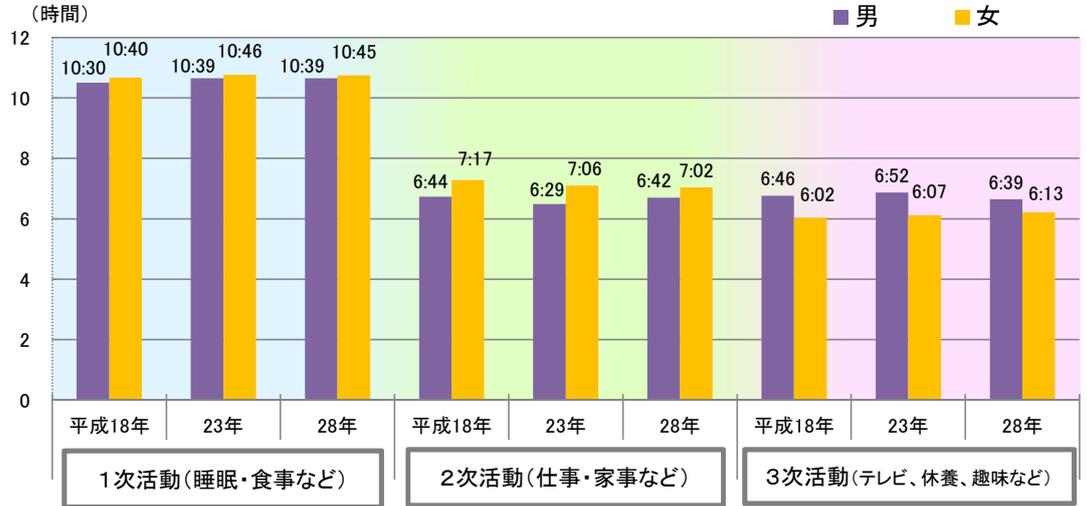
平成28年調査は、全国の約8万8千世帯に居住する約20万人、鳥取県では約1,500世帯に居住する10歳以上の世帯員を対象に、平成28年10月20日現在で実施されました。

行動の種類別にみる1日の生活時間（週全体平均）

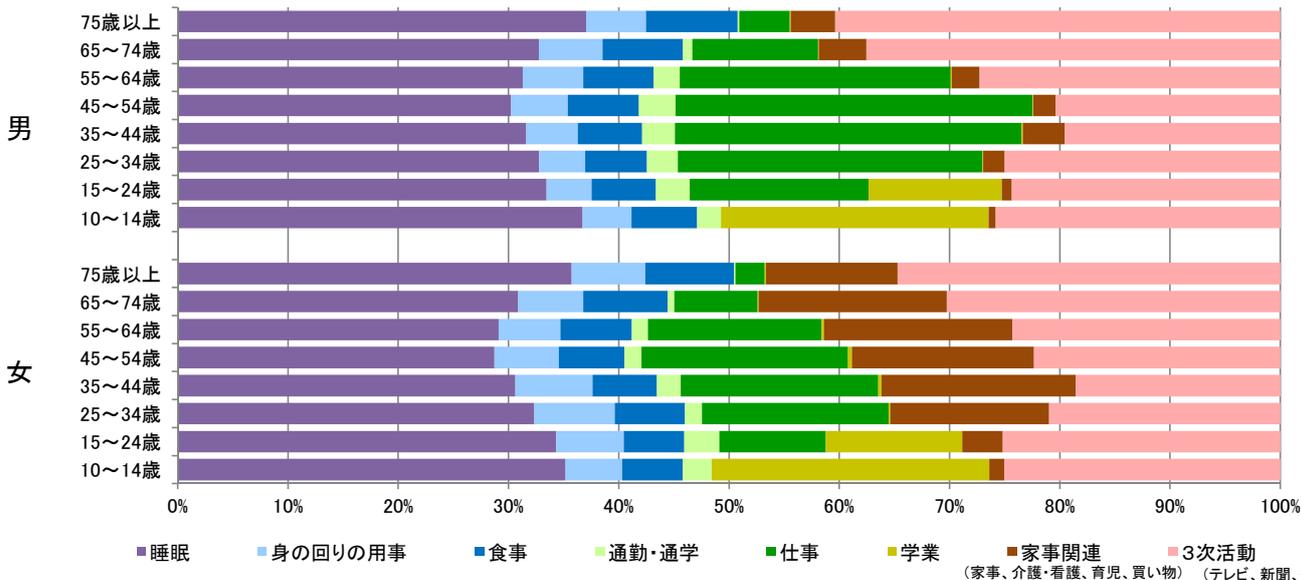
1日の生活時間を男女別にみると、1次活動と2次活動は女性が長く、3次活動は男性が長くなっています。

平成23年と比べ、男性は1次活動時間では増減はなく、2次活動時間が13分増加、3次活動時間が13分減少しています。一方、女性は1次活動時間が1分減少、2次活動時間が4分減少、3次活動時間が6分増加しています。

【1次活動】睡眠、食事など生理的に必要な活動
 【2次活動】仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
 【3次活動】1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動



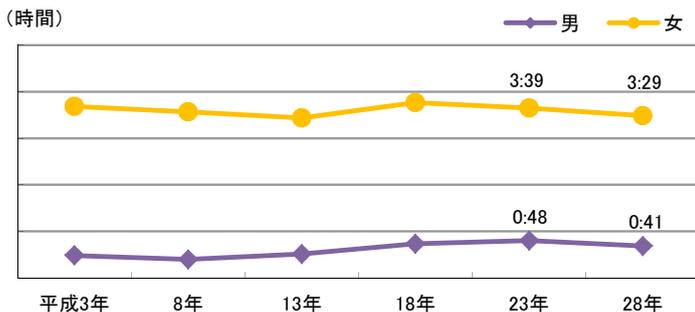
年齢階級別にみる生活時間（週全体平均）



週全体の生活時間を年齢階級別にみると、「仕事」と「家事関連」の割合に大きな男女差があります。

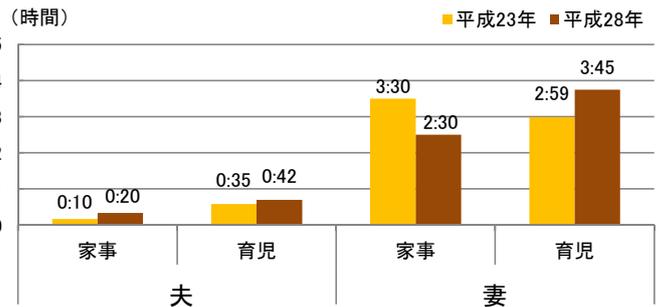
また、仕事時間は、男女ともに45～54歳が最も長くなっています。

家事関連時間の推移（週全体平均・15歳以上）



家事関連時間の推移をみると、平成23年に比べ男性は7分減少し、女性は10分減少しています。男女差は縮小されてきていますが、依然として大きな差があります。

6歳未満の子どもを持つ夫・妻の家事・育児時間（週全体平均・夫婦と子どもの世帯）



6歳未満の子どもを持つ夫・妻の家事・育児時間をみると、平成23年に比べ、夫の家事、育児時間はどちらも増加しています。妻は、家事時間が1時間減少し、育児時間が46分増加しています。